

第8回 人文・社会科学系研究推進フォーラム @ 広島大学

ELSI(倫理的・法的・社会的課題)に取り組むURAの 在り方 WS

京都大学学術研究展開センター(KURA)

白井哲哉

2023年3月17日

京都大学



1978年生まれ 兵庫県神戸市出身

分子生物学・発生生物学

2006年 京都大学大学院 生命科学研究科生命文化学 特任助教

2009年 京都大学 人文科学研究所 特定研究員

2011年 京都大学 人文科学研究所 特定助教

科学技術社会論 (STS)
科学技術ガバナンス
科学コミュニケーション

2012年 京都大学 学術研究支援室 (KURA)

2014年 京都大学 学術研究支援室 (KURA) 学際融合部門

2017年 京都大学 学術研究支援室 (KURA) 企画・広報グループ

(兼) 京都大学 プロボストオフィス

2022年 京都大学 学術研究展開センター (KURA) 融合研究創成部門

(兼) 京都大学 プロボストオフィス

リサーチ・アドミニスト
レータ (URA)

ゲノム研究 の ELSI

- ・ヒト試料を扱った研究
- ・次世代シーケンサーに係る研究
- ・合成生物学

STSの研究者として

文科省によるゲノムELSIユニットでの活動

宇宙科学 の ELSI

パンデミックのELSI

URAとして

京都大学の研究者からの依頼による
URAの支援活動

各グループで

- ① ELSIへの取組における課題の抽出・整理
- ② ELSIへの取組における課題への対応の検討



各グループの結果を発表・共有



各自、各大学・組織に持ち帰り、今日の結果を活用

今からワークをするために

- ① ELSIへの取組における課題の抽出・整理
- ② ELSIへの取組における課題への対応の検討



昨日の講演内容を思い出してください

2. ELSIへの取組 ①

(1) 課題の調査（論点・抽出）

その研究プロジェクトにおいて何がELSIとして存在するかを明確にし、俯瞰する

→ 多様な関与者とELSIについて共有する必要があるため

【調査する内容】

どのような課題が誰に対して存在するのか

例) 研究者・協力者（試料提供者）・政策担当者・受益者（一般市民）

専門家と非専門家とのギャップの明確化

例) リテラシー、研究の意義、目的、リスクとベネフィット

【どうやるか】

文献調査、WEB調査、アンケート調査、ヒアリング調査 etc.

(2) 課題への対応案の検討（考察）

多様な関与者と個々の課題について検討する

→ 多くの課題は、単一の専門家/関与者だけでは解決ができないため

【どうやるか】

i) 多様な関与者に向けて説明をする

→ 専門外の人に向けたわかりやすい説明が必要

→ 研究プロジェクトやそのELSIに取り組む意義なども説明し共有する必要がある

ii) 多様な研究者や関与者を含めた学際的議論の場を創る

→ 多様な関与者を集めるだけでなく、議論できる場のデザインも必要

iii) 多様な関与者の議論から対応案を生み出す

→ 熟議を促すファシリテーションや、コンセプトやアイデアを視覚化させる
サービスデザインが必要

(3) 課題への対応の実施

課題解決に向けた活動は多様

ほとんどの活動にはなんらかの広報活動（双方向のコミュニケーション活動）が必要
また、ELSIに対する活動全体のマネジメントが必要

3. ELSIへの取組に必要な人材

ELSIへの取組に必要な人材は多様

- ・ **研究者**（テーマに該当する自然科学・人文社会科学、 STSやTA）
- ・ **研究活動の周辺を担う専門人材（URA等）**

- 学際的な調査研究をサポートできる人材
- 学際的な議論の場を作る（マッチング）・コーディネートできる人材
- アカデミアと多様なセクターを繋げられる人材
- デザイン思考・サービスデザインができる人材
- アウトリーチ・広報の専門家（広報戦略・実行計画が描ける人材）
- プレアワード（資金獲得）業務ができる人材
- 上記の活動（プロジェクト）全体をマネジメントができる人材

ではWSをはじめましょう！

まずはアイスブレイク！

10秒・自己紹介

【呼んでほしい名前】

私の名前は〇〇です。〇〇と呼んでください

【座右の銘】

私の座右の銘は「〇〇です」

【ワーク1】

ELSIへの取組における課題の抽出・整理

ELSIへの取組における課題について

- ① 付箋紙に意見だし（約5～10分）
- ② 付箋紙の紹介と整理（約30分）
- ③ 付箋紙を模造紙に整理（約20分）

【ワーク1】

ELSIへの取組における課題の抽出・整理

ELSIへの取組における課題について

- ① 付箋紙に意見だし（約5～10分）
- ② 付箋紙の紹介と整理（約30分）
- ③ 付箋紙を模造紙に整理（約20分）

① 付箋紙に意見だし（5～10分）

- ※ 1枚の付箋紙には1つのことだけ書く
- ※ 主語・述語のある文章で書く

正しい、間違いがあるわけではないので
自分が思うことを何枚でも書いてよい

【ワーク1】

ELSIへの取組における課題の抽出・整理

ELSIへの取組における課題について

- ① 付箋紙に意見だし（約5～10分）
- ② 付箋紙の紹介と整理（約30分）
- ③ 付箋紙を模造紙に整理（約20分）

② 付箋紙の紹介と整理（30分）

<似たものの合わせ>

意味内容が近い付箋紙を同じ皿に置いていく

<タイトルづくり>

同じ皿に置いた付箋紙たちが共通して「主張」していることを1つの文章で表現

【ワーク1】

ELSIへの取組における課題の抽出・整理

ELSIへの取組における課題について

- ① 付箋紙に意見だし（約5～10分）
- ② 付箋紙の紹介と整理（約30分）
- ③ 付箋紙を模造紙に整理（約20分）

③ 付箋紙を模造紙に整理（20分）

※ 模造紙の上に全てのお皿を置いてみる

※ お皿の動かしながら、ひとつの「物語」として
図解が読めるように配置してみる

時間があれば「矢印（→）」なども加える

新たに気づいたことがあれば、付箋や皿を新たに作る

【ワーク1】

ELSIへの取組における課題の抽出・整理

ELSIへの取組における課題について

- ① 付箋紙に意見だし（約5～10分）
- ② 付箋紙の紹介と整理（約30分）
- ③ 付箋紙を模造紙に整理（約20分）

約束事

- 1. メンバーは対等に意見を出せます！
- 2. 出たラベルは全て活かしましょう！
- 3. メンバーの合意を得ながら進めましょう！
- 4. 時間を守って作業をするようにしましょう！

係の設定

「リーダー」「スパイ」「タイム」「文具・ムード」

【ワーク2】

ELSIへの取組における課題への対応

ELSIへの取組における課題への対応について

① 検討する課題のラベル付け（約10～15分）

② 検討する課題の決定（約5分）

③ 課題への対応方法の検討（約30分）

URAとして

①-1 検討する課題のラベル付け（約5～10分）

● 小：優先順位が高そうなもの

● 小：自分（URA）/自組織（URA組織）できそうなもの

● 小：自分（URA）/自組織（URA組織）やりたいもの

※ 各自、シール各色3枚、課題が書かれた付箋に貼る

※ 各自、同じ付箋に同じ色は2枚以上貼らない

【ワーク2】

ELSIへの取組における課題への対応

ELSIへの取組における課題への対応について

- ① 検討する課題のラベル付け（約10～15分）
- ② 検討する課題の決定（約5分）
- ③ 課題への対応方法の検討（約30分）

② 検討する課題の決定（約5分）

各グループで対応策を検討する課題（付箋）を数個
ピックアップ

※ 貼られているシールを見ながら、皆で決める

※ URAが対応できそうな課題を優先

【ワーク2】

ELSIへの取組における課題への対応

ELSIへの取組における課題への対応について

- ① 検討する課題のラベル付け（約10～15分）
- ② 検討する課題の決定（約5分）
- ③ 課題への対応方法の検討（約30分）

③ 課題への対応方法の検討（約30分）

議論をした対応策について、別の色の付箋に記載し、その課題の近くに貼る

※いつか対応策が出たら、別の課題についても同様に議論・対応策の付箋貼り

※各グループで気づいたら追加のシール貼り

● 大：研究者（コミュニティ）の活動に期待したいもの

● 大：FA/省庁の活動に期待したいもの

【ワーク2】

ELSIへの取組における課題への対応

ELSIへの取組における課題への対応について

- ① 検討する課題のラベル付け（約10～15分）
- ② 検討する課題の決定（約5分）
- ③ 課題への対応方法の検討（約30分）
- ④ 発表準備

④ 発表準備

発表者を決める

※発表時間は1グループ3分で以下2点を紹介

1. 課題の俯瞰・整理の紹介
2. 課題への策の紹介

【ワーク1】 【ワーク2】

ELSIへの取組における課題の抽出・整理・対応

片付け（保存）

課題の俯瞰マップを写真に収めます

各自、写真を撮りたい人を撮って持ち帰ってOK

各大学・組織に持ち帰り、今日の結果を活用してください！